

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：34503

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K01879

研究課題名（和文）洋菓子産業における継続的成長にむけた協働のしくみに関する研究

研究課題名（英文）Research on a system of collaboration for sustainable growth in the patisserie and confectionery industry

研究代表者

森元 伸枝（Morimoto, Nobue）

大手前大学・国際日本学部・准教授

研究者番号：70636422

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）： 地域産業を成り立たせるためには、その産業の担い手である人材を継続的に確保し、その人材の能力が発揮できるシステムが不可欠であるが、近年の技術や情報の急速な発展による制度的補完の崩壊は、それまでのシステムにショックを生じさせている。

このような制度的補完の崩壊においては、地域性（価値観や規律）に基づいた文化産業の担い手という共通認識のもと、新たな協働のしくみにより人材育成システムを再構築していることを神戸の洋菓子産業ならびに同じ地域内の関連産業のインタビュー調査から知ることができた。しかしながら、コロナウィルスの影響により十分な成果がでたとと言えるまでには達することができなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの地域産業の長期継続的成長にむけた研究は、業界内における企業間ネットワークとしての関係性から見ることはできる。また、人材育成について述べられている研究の多くは、各企業内における戦略的なものである。

本研究は、地域産業の長期継続的成長のための地域や業界内に存在するルールを人材育成の視点から探り、環境の変化に合わせて協働のしくみがどのように変化し、再構築されるかを明らかにしようとしたものである。

研究成果の概要（英文）： In order to sustain and develop a local industry, it is indispensable to have a system that can continuously secure human resources who are the leaders of the industry and demonstrate the abilities of those human resources. However, in recent years, the development of information and technology and the globalization are shocking the human resources development system that had been functioning well until then.

It was found that the Kobe's Western confectionery industry is structuring a new human resources development system with the collapse of such system complementation. Under the new system, culture and economy function like two wheels, so local industry needs a mechanism to develop human resources who can incorporate local characteristics into the cultural industry. However, due to the influence of the coronavirus, sufficient results have not been obtained.

研究分野：地域産業

キーワード：産業集積 文化産業 制度 人材育成

1. 研究開始当初の背景

地域の特質・資源を活かすことで、高い付加価値が提供できる地域産業については、産業集積論の視点から、さまざまな形で論じられ明らかにされてきた。そして、地域産業として発展するためには、その産業が特定地域に集積し続ける必要があり、そのためにはその産業界のルールが存在していることは明らかになっている。そして、その業界ルールがどのように生み出されてきたのか、そのルールがどのようなメカニズムにより維持されてきたかは森元が神戸の洋菓子産業を事例に、産業集積の継続的要因を人材育成システムの視点から明らかにした(森元:2009, 2010, 2012)。神戸の洋菓子産業には、競争制御のメカニズムが存在しており、そのメカニズムは、人材育成にある。神戸の洋菓子業界における不文律(親方と同じものをつくらない、親方の近くで開業しない)の存在、ならびに、その不文律を遵守できる人材が選ばれる仕組みの存在である。そして、選抜された人材がフロンティア開拓(伝統を受け継いだ高品質でありながら時代に即したものとイノベーションすることにより新たな顧客を取り込む)を行ってきたことである。こうした業界の担い手である人材をうまく再生産するためには、直接育成する業界の人たち(親方)だけではうまくいかない。特に、業界内の不文律を遵守させるためには、監視(モニタリング)の存在が不可欠である。そこに選ばれるのが、不文律を遵守することで品質はもちろん五感や価格を満足させてほしい顧客の存在である。そして、食材などの取引業者である。もし彼らが不文律を犯した新規の独立開業者と取引をしようものなら、加担したと見なされ、すでに取引している職人やそのネットワークから締め出されてしまう。そうした私利に基づいた地域の人々を人材育成に巻き込むためには、産業集積を継続的に維持発展させることが不可欠であることを明らかにしてきた。

研究者は神戸の洋菓子業界を事例に10年以上にわたり人材育成のしくみから地域産業の長期継続的成長を構築させる協働のシステムをインタビューやフィールドワークにより変遷を追ってきた。こんにちのようにグローバル化やテクノロジーの発達など環境の変化が激しいなかでは、迅速に高い付加価値を継続的に生み出し、生産性を高める必要がある。そのためには、人材の専門性や多様性を高めるためにOJTという人材育成は不可欠である。神戸の洋菓子業界においても産業の担い手である人材の育成は先輩職人や親方によるOJTを通じた徒弟制的な訓練を通じて伝承されてきたことを明らかにした。しかし、労働基準法の改正やテクノロジーの発展により環境が激変する中で、OJTの重要性が低下しているように見受けられるようになった。

それまでの産業を生み出す人材の育成のシステムにショックが生じているのであれば、産業は衰退せざるを得ないのであろうか。そうではなく、新たなシステムが構築されているはずであろう。では、その新たなシステムとはいかがなものか。規範的要因や社会的構造が戦略的にどのように影響をもたらしているのか、これを明らかにしたいというのが研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、環境の激変により制度的補完性が崩壊しかけている状況にある地域産業においては、どのような人材育成のシステムが長期継続的成長を可能にしているかを探ることである。

産業を成り立たせるためには、その産業の担い手である人材を継続的に確保し、その担い手の能力が発揮できるしくみが不可欠である。そこで人材育成のシステムを構築することで長期継続的成長を可能にしてきた神戸の洋菓子産業を事例に、「新たな人材育成システム」はいかなるものかを明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

複数の調査方法(以下詳述)を用い、収集した調査データを研究課題に基づき分析を行なった。

(1) 文献調査

産業集積論における制度慣行についてどこまでが明らかになっているのか、加えて、その制度における人材育成という視点がどのように組み込まれているのか文献調査を行った。

(2) インタビューならびにフィールドワーク調査

まず、神戸の洋菓子産業を支え続けてきた原材料供給業者などの周辺企業、ならびに地域産業の担い手である洋菓子企業(均衡が保たれていた時代のオーナーパティシエ、均衡が保たれていた街の洋菓店舗の後継者、業界に揺らぎが生じ均衡が崩れた後に産業を支えている洋菓子企業経営者など)に、インタビューならびにフィールドワーク調査を行った。

また、当初は予定をしていなかったが、コロナウィルス勃発前より阪神間の一部の地域で活発化し、洋菓子産業にも関連するカフェ・喫茶店といった珈琲関連産業へのインタビューならびにフィールドワーク調査を行った。

4. 研究成果

本研究の事例である神戸の洋菓子産業が地域産業として継続的成長を可能としてきた要因は、地域密着型企業による徒弟性にあった。つまり、産業の担い手である人材（将来独立開業を志望する者）の育成は先輩職人や親方による OJT を通じた徒弟性的な訓練を通じて伝承されてきた。しかし、産業界を取り巻く外部環境の変化、特に、1 日 8 時間以上の労働を強制できない労働基準法の強化は、独立開業志望者として入店してきた従業員ではあるが労働時間内では作業は要求できても、それまでのような十分な OJT は難しくなる。そのため、単純労働作業の部分は機械（技術の進歩により、小型で高品質、低価格な機械が増えてきた）を導入することで、差別化の源泉となる職人「技」（これこそが独立志望者が入店して学びたいところ）をうまく伝承しようとしている。

また、「神戸を洋菓子の街」へと高めてきた高度経済成長期頃に創業したオーナーシェフ（経営者であり洋菓子製造職人）の高齢化と跡継ぎ問題という内部環境変化に加え、神戸の洋菓子産業はさまざまな外部環境変化にも取り組む必要に迫られた。原材料の高騰（洋菓子の原材料の多くが輸入に依存している）、コンビニスイーツの出現（高品質低価格の実現）、道路交通法の改正（以前のように顧客は店舗前に駐車し気軽に買い物ができなくなった）、顧客が洋菓子に求めるものの変化（味への「おいしさ」よりインスタグラムなどの SNS に「映える」おいしさを求める）、異業種からの参入（神戸の洋菓子店舗の特徴はオーナーシェフであったが、菓子製造職人ではない経営者（雑貨業や不動産業、リサイクル業などの異業種からの参入）、供給側が需要側を大きく上回ることでフロンティアの余地（洋菓子店舗を開業できる地域＝独立開業志望者にとっての出店地）がなくなるなど、約 15 年間で環境は激変した。何よりも、異業種からの参入であれば神戸の洋菓子業界の不文律を知らない、また、フロンティアの余地がないということは、独立開業者のモチベーションを減らすことになり、それはこれまで長期継続的成長のためにうまく機能していた人材育成のしくみを崩すものであった。この制度的変化により、神戸の洋菓子産業は衰退していくと思われた。

しかしながら、神戸の洋菓子産業は新規参入者（あらたなプレーヤー）を積極的に受け入れ新たなルールを模索することで均衡を保っている。業界内での人材育成においては、縦のつながり（昔の呼び方でいえば親方と弟子）と横のつながり（同業者や供給業者、顧客などのネットワーク）があるのだが、以前は縦に強く、横に緩やかなつながりを持って均衡を維持していた。しかしながら、こんにちにおいては、縦の関係が弱く、横の関係を強くしている傾向があり、その縦のつながりは洋菓子文化を育成するためのもので、横のつながりは地域資源により構築されていた地域文化（叡智）に基づいた産業を育成するためのものである。このことは、地域での協働を実現する中で、自分たち地域産業に関わるものの社会的役割は、地域文化産業の担い手として、また継承の一端を担っているに過ぎないという共通認識に基づいていることがインタビューなどから明らかになった。

地域の文化産業と協働のしくみにおける妥当性のために、当初の予定では、他地域（京都や奈良）における菓子産業事業者インタビューを行う予定であった。しかしながら、初年度は他地域の菓子事業者は観光（インバウンドを含む）による多忙さでインタビューの日程調整がうまく合わず、2 年目以降はコロナウィルスの影響によりインタビューができなかった。その結果、他地域における妥当性は明らかになっていない。代わりに、インタビューとフィールドワークが可能であった神戸の洋菓子産業と同じ地域他業種（カフェ・喫茶店といった珈琲関連産業）の経営者にインタビューを行うことで、妥当性を探ってみた。今回のインタビューは洋菓子産業に変化が生じた（外的環境の変化が激しくなった）ほぼ同じ時代に創業している「スペシャルティコーヒー」を扱っている珈琲産業の経営者に行った。彼らからも、地域資源に基づいた社会・経済システムの中での文化産業の担い手であるという認識のもと、横のネットワーク（ただし、同業者とは限らず）を強化し、地域産業として発展につなげようとしていることが聞き取れた。このことから、神戸の洋菓子産業と同じしくみづくりを構築しようとしていることを知り得た。

今回コロナウィルスの影響で行うことができなかった妥当性は明らかにする必要がある。研究延長の申請の機会を逃してしまうという大失態により、今回申請した研究は一旦終了という形になってしまった。しかしながら、今後も地域の文化産業における継続的成長にむけた協働のシステムの変遷のなかで妥当性を明らかにすることを継続的研究とする。地域産業の協働のシステムにこそ、「ものづくり」技術の継承とイノベーションを生み出すしくみがあり、そのシステムの妥当性は地域だけでなく、国力にもつながると確信しているからである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Nobue Morimoto
2. 発表標題 EDUCIDATION OF THE MECHANISM OF LONG-TERM SURVIVAL OF LOCAL INDUSTRIES: THE CASE OF KOBE'S PASTRY INDUSTRY (Structures to Sustain and Develop Local Industry - from a Case of Human Resource Development in Kobe 's Western confectionary industry -)
3. 学会等名 ICBEIT (International Conference on Business, Economics and Information Technology) 2020 Sydney (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 一般財団法人全国製菓衛生師養成施設協会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学研プラス	5. 総ページ数 768
3. 書名 改訂新版 新カリキュラム対応 製菓衛生師教本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>【シンポジウムにて発表】 2021年度大手前大学交流文化研究所 シンポジウム コンテンツツーリズムにおける文化の継承～「聖地巡礼」の現場における実践から～ 「事業継承を契機とする西宮スイーツ文化の形成」</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------